

蔵王山の火山活動解説資料

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

蔵王山では、7 日から御釜付近が震源と推定される火山性地震が、やや多い状態となっており、9 日には火山性微動が発生するなど、火山活動はやや活発となっています。このため、9 日に山形県の協力により、上空から撮影した映像を解析した結果、御釜は凍結しており、御釜周辺に異常はみられませんでした。

2013 年 1 月以降、火山活動の高まりがみられます。過去の活動期には、突発的な噴気孔の生成や、火山ガスの噴出等の現象があったことから、登山等で火口に近づく際には十分注意してください。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図 3、図 4）

蔵王山では 4 月 7 日以降、御釜付近が震源と推定される規模の小さな火山性地震が増加し、9 日に 35 回観測されるなど、やや多い状態が続いています。

9 日 15 時 49 分頃には継続時間約 1 分 20 秒、最大振幅（上下成分） $1.0\mu\text{m/s}$ の火山性微動が発生しました。今回の火山性微動は、2013 年 1 月以降観測されている微動の中では規模の小さいものでした。火山性微動が観測されたのは、2 月 11 日以来です。

・地殻変動の状況

坊平観測点に設置している傾斜計¹⁾では、これまで火山性微動の発生に伴って、南東上がりの変化が記録されることがありますが、9 日の火山性微動の発生時には、特段の変化はみられませんでした。

GNSS²⁾による山体及びその周辺の地殻変動観測に特段の変化はありません。

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2）

9 日に山形県の協力により撮影した上空からの映像の解析では、御釜は凍結しており、御釜周辺に異常は認められませんでした。

遠刈田温泉（山頂の東約 13km）及び上山金谷（山頂の西約 13km）に設置してある遠望カメラでは、噴気は認められていません。

気象台では、現地の状況の確認を含め、火山活動を注意深く監視しています。

今後、更なる活動の活発化がみられる場合には、噴火警報等を発表します。

1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。

2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 26 情使、第 578 号）。

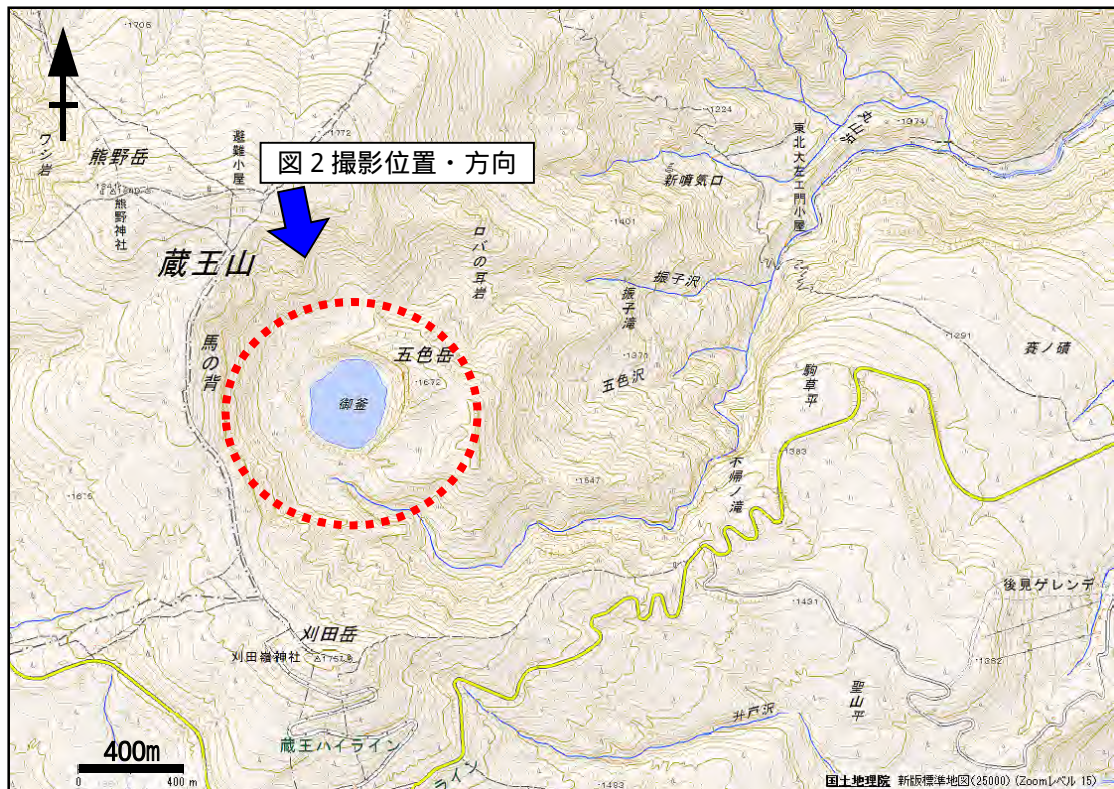


図1 蔵王山 上空からの写真撮影位置・方向と範囲

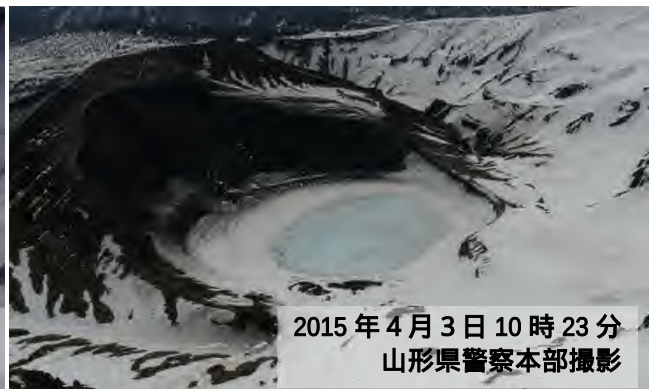
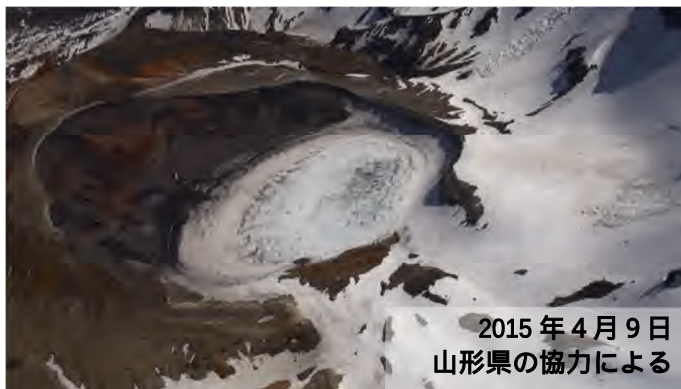


図2 蔵王山 御釜の状況

・御釜は凍結しており、その周辺にも噴気は認められません。

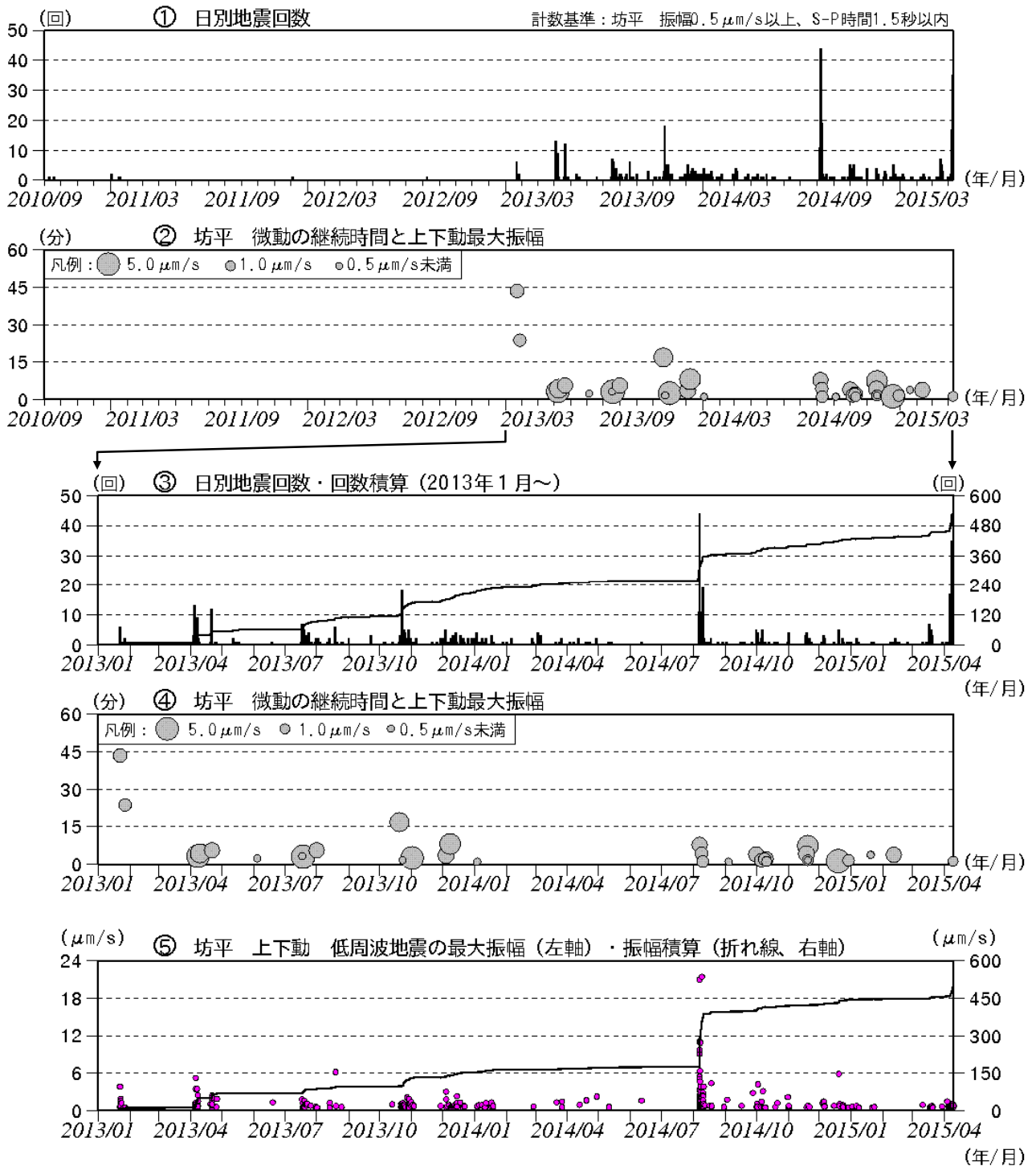


図3 蔵王山 火山活動経過図(2010年9月～2015年4月9日)

- ・2010年9月1日から観測を開始しました。
- ・回数は速報値で精査後修正される可能性があります。

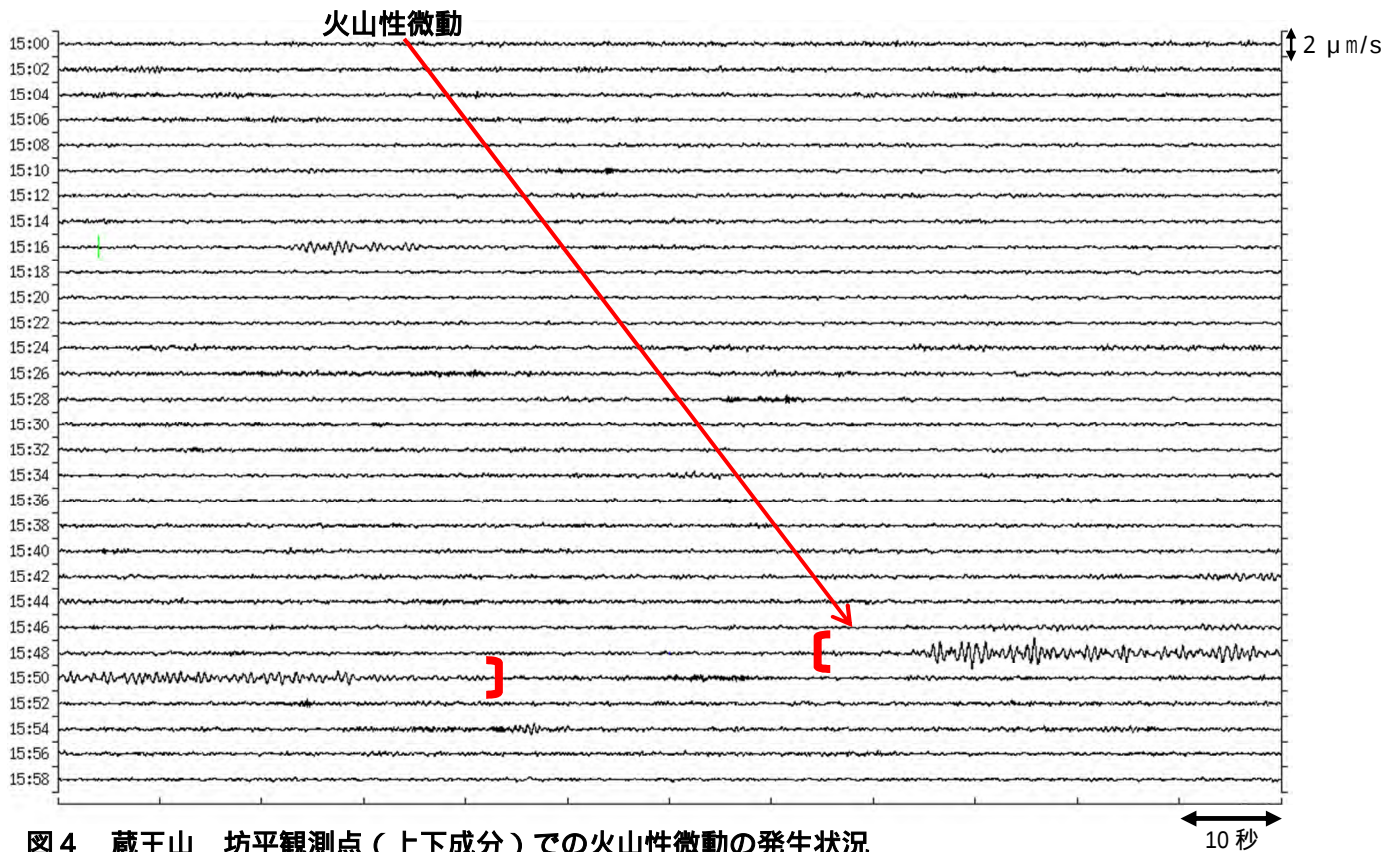


図 4 蔵王山 坊平観測点（上下成分）での火山性微動の発生状況
(2015 年 4 月 9 日 15 時 00 分～16 時 00 分)

・ [] は火山性微動を示します。

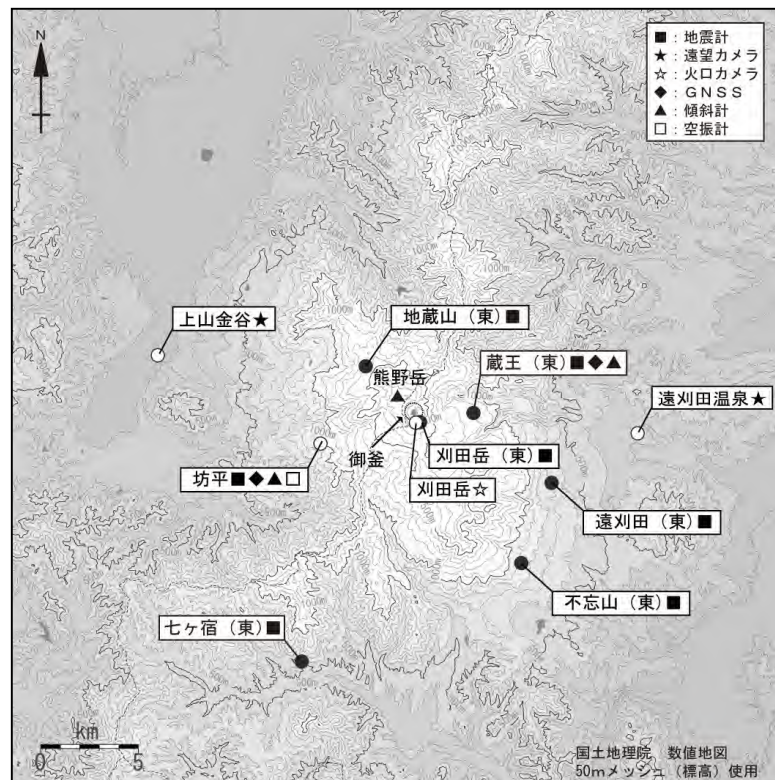


図 5 蔵王山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

刈田岳火口カメラは、冬期間観測を停止しています。

(東)：東北大学